



【韓国】 総合指数は週間で1.9%安と反落、今週も神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.9%安と反落。9日は大統領選挙で休場のため、4日間の取引だった。ウクライナ情勢の緊迫化が嫌気されたほか、ロシアへの制裁を背景とした物価上昇と景気悪化が警戒され、週前半の7-8日は続落。休場明け10日は大統領選挙の結果を受けて2.2%高と大幅に反発した。上昇率は昨年2月25日以来、約1年ぶりの大きかった。次期大統領に当選した尹錫悦（ユン・ソクヨル）前検事総長が投資家寄りの市場改革を進めるとの期待から買いが広がったほか、急騰していた原油相場が反落したことも指数を押し上げた。11日はロシアとウクライナの外相会談で大きな進展がなく、反落している。今週もウクライナ情勢をにらんで神経質な展開が続くか。国内では16日に2月の失業率が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 モスクワ証取は先週も株式取引を停止、再開のめど立たず

先週の動き／今週の展望

ロシア市場は7-11日の1週間にわたり休場。モスクワ証券取引所は7-8日が祝日などで休場となり、9-11日にはロシア中央銀行がモスクワ証取の株式取引を停止した。ロシアのウクライナ侵略を受けて米欧は対ロ経済制裁を強化しており、ロシア政府は海外への資金流出を防ぐ資本規制を強めている。主要なロシア株に投資する米国ETFで、運用資産残高が最大のヴァンエック・ロシアETFも、シカゴ・オプション取引所（Cboe）が取引を停止した。通貨ルーブルは、対米ドルで前週末の121.037ルーブルから先週末は126.50ルーブルと週間で4.5%のルーブル安となり、年初来では69.7%安。モスクワ証取は今週も18日まで株式取引を停止するとの見通しを発表しており、現段階で再開のめどは立っていない。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.6%安と反落 今週はもみ合う展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で2.6%安と反落。食品、鉄鋼、金融などの主力銘柄が利益確定売りに押され、指数を押し下げた。週明け7日は大型株に利益確定売りが強まり、指数は前週末比0.4%安。8日は銀行、石油・天然ガス、鉄鋼株など幅広い銘柄に利益確定売りが強まり、1.7%安と続落した。9日は横ばいで、10日は0.4%上昇したが、11日は0.8%安と3日ぶりに反落。指数は一時、1月25日以来の安値をつけた。1月につけた過去最高値からの下落率は4.6%となった。個別では食品加工のマサン・グループが11.7%安と急落したほか、鉄鋼のホア・ファット・グループが4.4%安、金融の軍隊商業銀行も4.4%安、エネルギーのペトロベトナム・ガスが4.3%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが4.2%安と軟調だった。今週はもみ合いか。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、今週は 17 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%安と小幅反落。週半ば以降に買い戻されたが補えなかった。週初の 7 日は、商品相場の高騰を受けて資源株が買われた一方、金融株などに売りが出て、指数は過去最高値を更新した前週末から反落。8 日は引け際に売り込まれた影響で続落したが、9 日は反動で 3 日ぶりに反発した。週後半は 10 日に前日の NY ダウが大幅反発した流れで買われ、終値で 4 日ぶりに 6900 ポイント台を回復したが、11 日は小幅に反落して引けている。今週は 15 日に 2 月の貿易統計が発表されるほか、17 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利の動向が注目されそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%高、今週は 17 日に 2 月の非石油地場輸出発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%高と 4 週ぶりに反発。荒い値動きが続いた。週初の 7 日は、原油価格の急騰が嫌気され、指数は終値で 3200 ポイントを割り込み、前営業日比 1.2%安と続落。8 日はインフレ加速への警戒感から売り優勢の展開が続き、連日の 1.2%安と終値で約 2 カ月ぶりの安値を更新した。ただ、9 日に安値拾いの買いで前日比 1.5%高と 4 日ぶりに反発すると、10 日は世界的な株価の上昇に連動して、終値で 1.4%高と 4 日ぶりに 3200 ポイント台を回復。11 日も小幅に上値を広げて取引を終えた。今週は 17 日に 2 月の非石油地場輸出が発表される予定で、前年同月比で 2 桁増となる見通し。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、インフレ懸念の高まりを嫌気

SET 指数は週間で 0.8%安と 3 週続落。週前半の下落が痛手だった。週初の 7 日は、ロシアのウクライナ侵攻を受けた原油価格などの高騰によりインフレ懸念が高まった影響で、指数は前営業日比 2.7%安と続落。8 日は場中に一時、節目の 1600 ポイントを下回り、終値でも約 2 カ月半ぶりの安値を更新したが、9 日は前日までの反動で大型株を中心に買い戻され、指数は前日比 1.5%高と 4 日ぶりに反発した。10 日はロシアとウクライナの外相会談に対する期待感などで買われると、結局、11 日まで 3 日続伸して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、15-16 日に開催される米 FOMC などの外部要因が焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.2%安、ウクライナ情勢を巡る緊張を嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 2.2%安と反落。不安定な値動きが続いた。週初の 7 日は、ウクライナ情勢を巡る緊張が投資家心理を冷やし、指数は前営業日比 2.0%安と続落。8 日はエネルギー価格の高騰を受けて前日の NY ダウが大幅下落した流れを引き継ぎ、前日比 1.6%安と終値で 1 カ月ぶりの安値を更新した。一方、9 日はホンリョン銀行を含む大型株の一角に安値拾いの買いが入り、指数は 4 日ぶりに反発すると、10 日は原油価格の上昇が一服した効果で前日比 1.2%高と続伸。ただ、11 日はエネルギー株に利益確定売りが出て、反落して取引を終えた。今週は 18 日に 2 月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。